

媚妹Baby

フルカラーコミック  
Full Color Comic

SSS  
亜美

くわいむれもん

adult only





媚・妹・Baby  
Be my

JSA 亜美

原案 くりいむレモン  
媚・妹・Baby  
TEXT ローライ  
CG かも兄



## エピソード1 妹の性教育

その夜、亜美は○学校で出された宿題を片付けるべく机に向かっていた。目の前の教科書に神経を集中させていると、突然亜美の耳に妙なうめき声らしきものが飛び込んできた。耳を澄ませてみると、それは隣の兄ヒロシの部屋から聞こえてくる。具合が悪いのではないかと気になって、亜美はヒロシの部屋へ向かった。

少しだけ扉を開いたところで、亜美は「アッ！」と思わず声を上げそうになった。ドアの隙間から十×歳の兄がベッド上で下半身をムキ出しにして、その股間にそそり立つ肉棒をさする姿が露になったせいだった。

「ああっ・・・亜美、今度はこれを口に入れてごらん」

ヒロシはなにやら雑誌らしきものを片手に自慰に耽っている。しかし、○学生の亜美にはその意味が正確に理解できない。ただ、その行為がすごく衝撃的でありながら興味深く映ったことも確かだった。

「・・・亜美、舌でよく舐めるんだ・・・あ・・・ああ・・・イイよ。サイコーだ」

兄がなぜ自分の名を呼んでいるのか、それとも雑誌の登場人物がそういう名前なのか、亜美には見当がつかなかったが、まるで兄に愛撫されているような気分になって、亜美は無意識に股間を押さえていた。



そのうち、ヒロシの声が徐々に上ずったものになり始めた。血管の浮き出た肉茎をしごく右手の動きが急になった。

「あうう・・・亜美、さあ、奥までくわえて。お兄ちゃんが熱いご褒美をあげるからね」

そう口走った瞬間、ヒロシの肉棒先端から白い液体が迸り出た。

「オオ——ッ！」

獣の咆哮とともに体液は四方に飛び散り、シーツをベトベトに汚しながらなおも放出を続けていた。信じがたい光景だった。兄の猛々しいものから噴き出した液体の正体、なぜ兄が自分の名（らしきもの）を叫んでいたのか、なにも分からず、亜美は見ではいけないものを見てしまったのかのごとく後ずさりして、一目散

に自分の部屋へ舞い戻った。

お兄ちゃん・・・

先ほどまで目の当たりにしていた鮮烈な情景を思い出し、顔を真っ赤に染めて亜美は兄の行為の意味を必死に考えた。混乱と恐慌状態にさいなまれつつ、亜美は兄が手にしていた雑誌に答えがあるとの結論に達した。

翌日、○学校から一目散に帰った亜美は急いでヒロシの部屋へ飛び込んだ。中○生の兄はまだ数時間は帰宅しない。その間にあの雑誌を探し出し、昨日の行為の意味をさぐるのだ。

それは兄のベッドの下から簡単に見つかった。恐る恐る雑誌を開いた亜美はその刹那、思考力を失ってしまった。

雑誌はフルカラーで非常に薄い本だった。そこに描かれたマンガとイラストのヒロインは亜美という名ではなかったが、外見は亜美にたいへんよく似ていた。

亜美が思考力を失った理由、それはその内容にあった。

ヒロインと思しき十代の美少女は男に命じられるまま、肉体での奉仕を強要されていたのだ。男の股間の猛り狂った一物を一心不乱に舐めしゃぶり、続いて処女を奪われ泣き叫ぶ少女の艶姿は、しかし同時に没我の境地に達するほど美しく儂いものだった。

お兄ちゃん、このコと亜美を重ねているの？

想像してただけで躰の芯が熱くなり、立っていられなくなった。

半ばパニックになりながら、亜美は雑誌を片付けて兄の部屋を後にした。

ホラ、もっとな  
奥まで  
くわえて...

あげるから  
ね...

...あッ  
はッ

同日夜、再びヒロシの独演会が始まった。だが、今度は隠れた共演者のいることが違いだった。ヒロシの命じるままに、隣室の亜美は躰を開いてその全てを受け容れた。

「さあ、亜美、もっと脚を拡げてごらん」

「・・・お、お兄ちゃん・・・亜美、恥ずかしい——」

半裸でベッドに横たわった亜美は隣室の兄が破廉恥な命令を出すたび、躰を動かして従順に指示に従った。

現実には壁で隔てられており、しかもヒロシは妹が聞き耳を立てていることに気づいていないのだから、二人の行為につながりはない。しかし亜美にとってそれらは擬似といえないほどに迫真性をもって伝わっていた。おそらくそれは雑誌の美少女の境遇に亜美が共感を抱いたからにほかならない。

兄が羞恥心を煽るような命令を出すたび、亜美の躰は熱く燃え上がり、薄紅色に染まって汗だくになりながら奉仕を続けた。

最初は声押し殺しながら行為に及んでいたのだが、次第に亜美の官能は昂り、自分でも制御できないほどに昇り詰めてしまった。

「うああああ・・・亜美、もっと腰を動かして——」

「らめエ・・・お兄ちゃん！ 亜美飛んじやう、飛んでっっちゃううう・・・」  
もはや嬌声を隠すことなどできなくなっていた。

だから、兄が妹の「共演」に気づいて、すでに扉の物陰から覗いていたことも意識の圏外だった。

亜美が最初の絶頂を迎えたとき、「ガチャツ」と扉が開け放たれた。そこには下半身に何もつけていない兄ヒロシの姿があった。

「えっ？ お、お兄ちゃん・・・」

亜美にとってそれは衝撃以外のなにものでもなかった。ゆえに、続くヒロシの行為に抗うことは何一つできなかった。



あつ

あつ

あつ

熱うーい  
褒美  
と...

タキシ

あつあつ

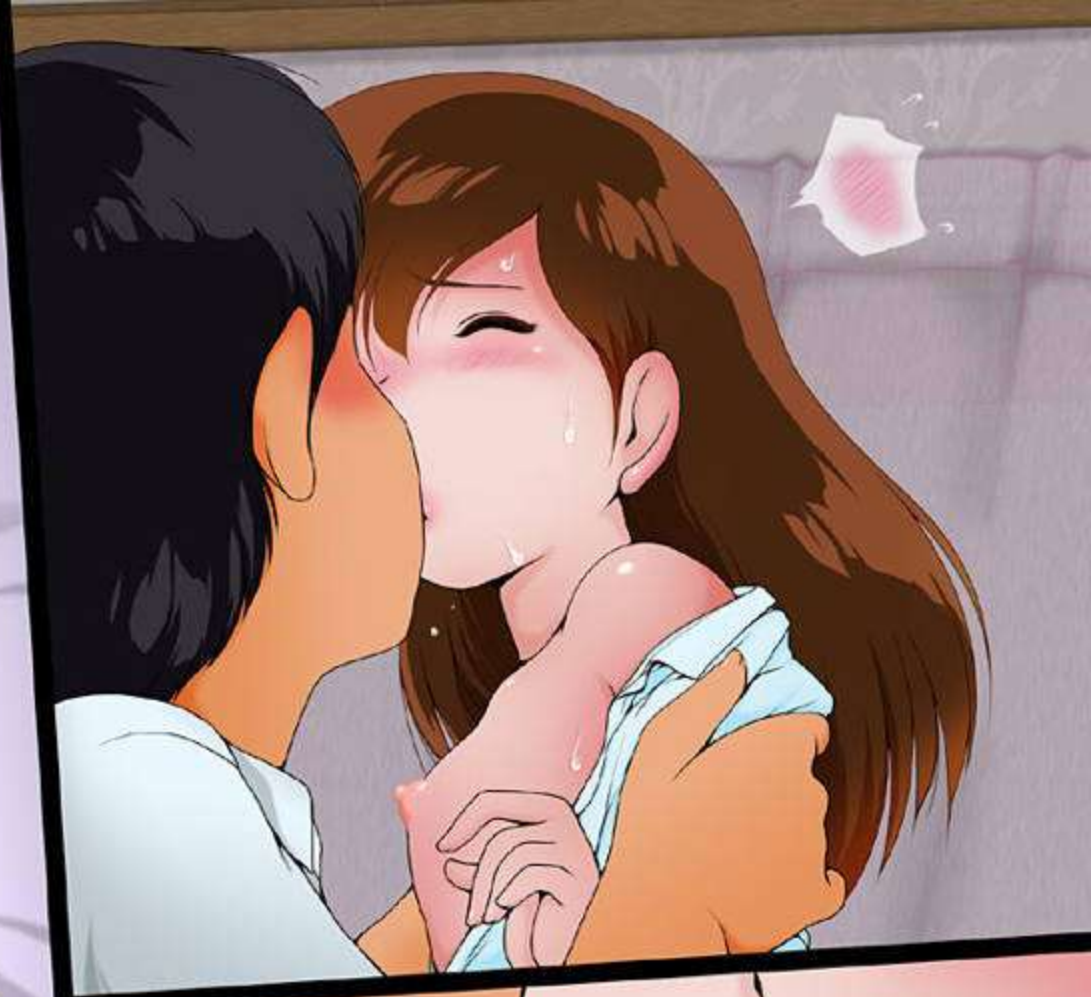
あげるから  
ね...

...あつ  
それはッ

ホラ、もっと  
奥まで  
くわえて...

んッ

んッ





「亜美、好きだ、好きだよ」

唐突に近づいてきたヒロシの両腕が力づくで亜美の裸身を抱きしめた。

「なにをするの！ お兄ちゃん、やめてッ、イヤイヤ——」

それ以上の言葉は無理やりのキスで封じ込まれた。

一呼吸置いたのち、ヒロシは妹のふくらみきらない胸と発育がはじまったお尻を揉みしだき、続いて股間に指を伸ばした。

「いやあ、ダメエ——」

思わず必死で抵抗した亜美だったが、次のヒロシの台詞でとどめを刺された。

「さっきキレイだったよ」

「・・・お兄ちゃん、見てた？」

それには答えず、ヒロシは亜美の割れ目にズブツと指を差し入れた。

「あうっ！」

「ほら、まだこんなに濡れてるよ」

ひとしきり媚肉を掻き混ぜてからヌメリ光る指を抜き出して、ヒロシは嬉しそうに告げた。

「いやっ・・・」

全てを知られてしまった後ろめたさ、自分ではどうにもならない躰の火照り、それらが無い交ぜになって亜美の心身を焦がし尽くした。

兄の舌が敏感になっっている亜美の乳首を舐め回し、それから腹部を這って一直線に無毛の園へと降りてきた。

「やめて！ お兄ちゃん、そんなこと、いけない・・・」

ザラついた舌が無垢の秘肉に分け入り、甘い蜜をすすり始めた。

「だめっ・・・あつ、うあああ・・・」

目くるめく快感に我を失い、亜美は兄の為すがままに身を委ねた。

「さあ、今度は亜美の番だよ。これに触ってごらん」  
兄に促がされて亜美は恐る恐るヒロシの肉棒に手を伸ばした。  
亜美が一物を握ったとたん、それはますます激しくいきり立った。  
亜美は勃起した肉棒の大きさにおびえた表情を見せた。

「ああ、亜美、もうガマンできないよ。  
先っぽにキスして」  
「えっ？ でも……でもお兄ちゃん、  
それって……」  
「女の口はみんな舐めて奉仕をするん  
だよ。さあ、早く！」  
亜美は戸惑いの表情で目を瞑り、亀頭  
を半分包み込むように唇を当てた。



「うっ……あああつ、気持ちいいよ。そのまま舌で  
舐め回してごらん」  
亜美は舌で亀頭を舐めしやぶった。  
次第に上気して亜美の頬に朱が差していく。



ついにそこで昂りが臨界点に達したようだった。  
「あ、あああ……亜美、で、出るよ！」  
灼熱の精液、その奔流が迸り出て亜美の無垢な肢体を白濁色に染めた。

「次はゆっくりくわえて……唇でしごきながら出し入れするんだ」  
亜美はゴクリとうなずいて命じられるままに抽挿をくり返した。  
従順な妹の姿に嗜虐心を刺激されて、次の瞬間ヒロシは怒張を無理やり  
亜美の喉奥までねじ込んだ。

?!?!?

ん  
ん  
ん




「亜美の体、とってもいい匂いがするよ。それに乳首もこんなに固くなって・・・コーファンしてるんだね」  
「そ、そんなことないもん・・・」  
兄の玩弄に亜美は思わず反論した。



「これが女のコの・・・」  
ヒロシは唾を飲み、グニユグニユと菊門、花びらを弄り回した。  
「やめて、お兄ちゃん・・・ヘンなことしないで——」

ヒロシはしばらく肉の感触を楽しんだのち、花びらをありえないほどめくり拵げた。  
「あうっ、んああああ・・・」  
「亜美、キレイだ。キレイだよ」



ヒロシは辛抱堪らず、亜美の股間にむしやぶりついた。最初に菊門を舐め回し、舌を差し入れて亜美の抵抗力を奪った。

「ダメツ！ お兄ちゃん、そんなところ、汚い——」

だがヒロシは妹の言葉に耳を貸さず、続いてクリトリスと膣を交互に責め始めた。

「あつ、あああああ・・・亜美、どうかなっちゃう・・・」

亜美の興奮は限界に達して、ついに昇り詰めてしまった。



ヒロシは茫然自失状態の妹を後方より抱き上げると、  
その両ひざを抱えてM字開脚状態にした。

「お、お兄ちゃん……」

「亜美、一つになるんだよ」

振り返った怒張が亜美の割れ目をヌチャツと押し開いた。  
ここに至り、ようやく亜美は少しだけ我に返って反応した。

「……いやっ、お兄ちゃん……それは……」

「亜美、好きだ、好きだよ……」

あーん  
あーん  
あーん





「お、お兄ちゃん・・・それだけはダメ、許して・・・」  
ヒロシは妹の哀願をいっさい無視した。  
「亜美、いくよ」  
「い、痛いッ、いやあ・・・」  
猛り狂う肉棒が処女の花園に侵入を開始。それは躊躇することなく挿入されていった。



あ

「お兄ちゃん、亜美、怖い……」  
妹の処女を味わいつつヒロシの怒張が根元まで入った。  
「亜美……入ったよ」  
「う、ううっ……亜美、壊れちゃう……」

お兄イ……

お兄

あ  
あ

あ

ちゃんっ



亜美

もうダメ...

おかしく  
なっちらち  
りゅらりゅ

おお  
おお  
おお



「亜美、す、すごいよ。  
絡み付いてくるみたいだ」  
「んあっ、やあああ……」  
「くうっ、亜美っ！  
もうイキそうだ。  
あっああ……」  
「おっ、お兄ちゃん！  
亜美、トンじやうう——」  
「うおお、あ、ああああ……」  
恍惚の中、ヒロシの肉茎が  
灼熱のマグマを噴出させた。





肉棒を引き抜いたところで、大量のザーメンが亜美の股間からドロドロと流れ落ちた。精液と処女の血でグチョグチョになった媚肉を見てヒロシの怒張は急回復。

「亜美、次は上に乗ってごらん」  
亜美は少しだけ首を起こして  
コクリとうなずいた。  
以下、次号。

# エピソード0 冴子先生の保健室

養護教諭である鮎川冴子の許へ〇学生のヒロシが訪ねてきた。

「冴子先生、体がおかしくなっちゃって——」

「どうしたの？」

「妹のことを考えるとこれが硬くなって、おしっこが出なくなりました」

「それは異常かもしれないわね。さっそく見てみましょう」

冴子は若竹のごとく振り返った肉茎をパイプリフレラで歓迎した。



「どう？これが女の体よ。ヒロシくんのモノが硬くなるのはなににも  
おかしくないの。さあ、熱い精液でわたしのお腹を満たして——」  
冴子先生の体を張った課外授業によりヒロシは童貞を卒業した。

はあっ

はあっ

次は…

コレで…



エピソード2 拓朗先生の家庭訪問

本日は亜美の担任である早川拓朗先生の家庭訪問日。しかし一つ前の訪問スケジュールが延びて、亜美の家庭訪問予定時刻を大幅に超過してしまう。

亜美は自宅の二階で待機していたが、待ちくたびれてベッドでうたた寝してしまった。そこへ拓朗先生登場。うたた寝している亜美を見て、さっそくよからぬ考えを巡らせた。

「ああ、亜美たん。以前からこういう機会を待っていたんだよ」

拓朗は一瞬にして全裸になり、亜美のスカートとパンツを脱がしていく。





「亜美さんの最初の男になれるなんて、ボクは果報者だあ」  
拓朗は亜美の処女が兄ヒロシのものになったことを知らない。  
拓朗の1物が亜美の花びらに触れ、その亀頭が半分ぐらい埋没した。  
「おお、○学生はサイコーだぜえ！」  
そのとき、「ただいまー」という男子の声が一階玄関に響いた。兄が帰ってきたのだ。  
「亜美、帰っているのか。そっちにいくよ」

「まずい！（大汗）」  
拓朗は数秒で衣服を着用、眠っている亜美にスカートとパンツを穿かせると、二階の窓から脱出。光よりも速いその姿を目撃した者はだれもいなかった。

おお、うっ

学生は  
サイコー  
だぜえ

うん

おん

おん

## あとがき

この本を手にとったかたは18禁アニメの金字塔「媚・妹・Baby」をご存じである確率が高いと感じます。その「媚・妹・Baby」本編内でお兄ちゃんと関係を結んでしまう妹、亜美は当初の設定では11歳でした。しかし製作会社側もさすがにそれはまずいと思ったのか（ビデ倫からクレームがついたのか）、ビデ倫を通った後の本編では「わたし亜美、11歳」という冒頭のセリフが省かれていました。

それだけでなく、新たにAパート（前半部分）が付け加えられて、そこには制服を着て学校に通う亜美の姿が描かれていました。すなわち設定年齢が引き上げられたということです。ところが、これが想定外の大きな反響を呼びました。亜美というキャラクターに生命が吹き込まれたのです。以後、亜美シリーズは18禁アニメの伝説的ヒット作となり、続編が数多く作られました。

その評価は毀誉褒貶さまざまですが、わたしには亜美が当初の企画通り11歳のまま作られたなら、どうなっていたのか、疑問が残りました。そして疑問に答えを出すため、作画担当のらも兄さんと協議を重ねた上で、「媚・妹・Baby A1」を制作した次第です。お兄ちゃんがなにやらやりたい放題やっていますが、双方ともに設定年齢が下がっているの、若気の至りが暴走した果てと受け止めてください（笑）

なお、今回よりらも兄さんのCGタッチに変化が生じています。これはわたしとらも兄さんで話し合い、最新のCGトレンドを大胆に取り入れていこうと合意した結果であり、その成果が今作となります。いかがでしょうか。

それと、タイトルに「A1」と銘打った意味を解説します。英米圏では「改良版第1作」を示す際に「A1」とネーミングするケースが多く（法的な決まりではありません）、「媚・妹・Baby」は「be my baby」からの造語なので、「媚・妹・Baby A1」が本作のタイトルにふさわしいと思いました。ちなみに「改良版第2作」を指す場合は「A2」と枝番を振ります。ゆえに、予告編で提示したように次回作は「媚・妹・Baby A2」です。兄妹の関係は今後どのように進展するのか、今冬発行予定の次回作にご期待ください。

ローライ

今回の  
ボツ絵  
→



今回DL版ということで、タイトルを少し変更しました。「JSのAmi」でJSAです。

正直ロリは苦手で、今回も果たしてちゃんとロリになってんのが非常に不安です。「描いてるうちに段々年齢が上がってゆく病」は、どうも治ってないみたいだし。

らも兄

### 目次

エピソード1 妹の性教育 P.4

エピソード0 冴子先生の保健室 P.20

エピソード2 拓朗先生の家庭訪問 P.22



次回

はー

こころ……

媚・妹

はー

Baby

JSA2

「亜美、

次は上に

はー

乗ってぐらん」

おんちゃん





あっ

あっ  
あんっ

あん  
♥

お……っ  
お兄イちゃんっ

あっ  
あっ

まだ……

ランドセル

亜美……  
それが  
イイんだっ

そのままが

イイ……っ

んだよっ



Presented by

焼きレモン ROAST LEMONS

オーバーコッペン  
& OBERKOCHEIN

